

【中間報告】

雨水貯留対策の効果算定を行っています！

雨水貯留対策(例) … 雨水タンク、田んぼダム、ため池、校庭・公園

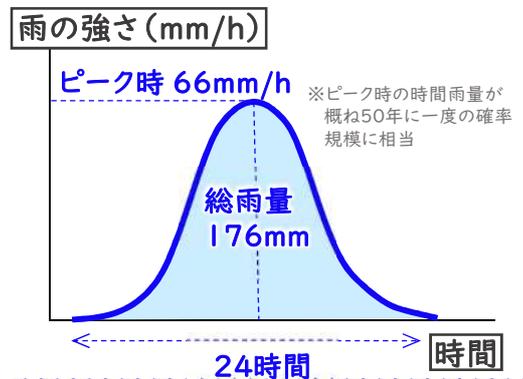
算定方法

(1) どのような雨が降ることを想定しているのか

大路川流域に一律で、

24時間の総雨量176mm・ピーク時の時間雨量66mm

の雨が降ることを想定しています。 ※ピークが強い



【参考】

事象	降雨量(袋河原観測所)
平成30年7月豪雨	24時間の総雨量196mm、ピーク時の時間雨量29mm
令和3年7月豪雨	24時間の総雨量221mm、ピーク時の時間雨量34mm

(2) どのような雨水貯留対策を想定しているのか

雨水タンク(貯留量0.1万m³増)

25mプール
約2杯分

●タンク1個あたり0.1m³(100リットル) × 家屋13,300戸



ため池(貯留量9.4万m³増)

25mプール
約173杯分

流域内の全てのため池において、これまでより一律50cm雨水を多く貯める
●ため池の湛水面積188,659m² × 0.5m



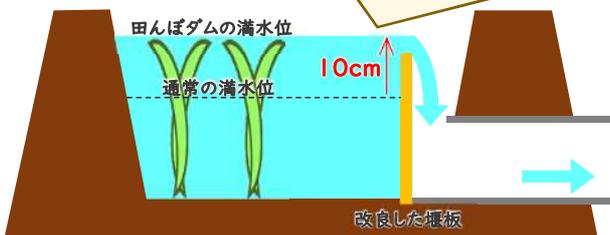
予め、水位を50cm下げしておく(水を抜く)

田んぼダム(貯留量89.3万m³増)

25mプール
約1,650杯分

流域内の全ての田んぼにおいて、これまでより一律10cm雨水を多く貯める

●田んぼ8,930,000m² × 0.1m

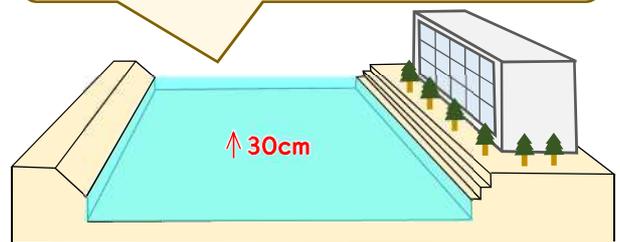


校庭・公園(貯留量3.2万m³増)

25mプール
約60杯分

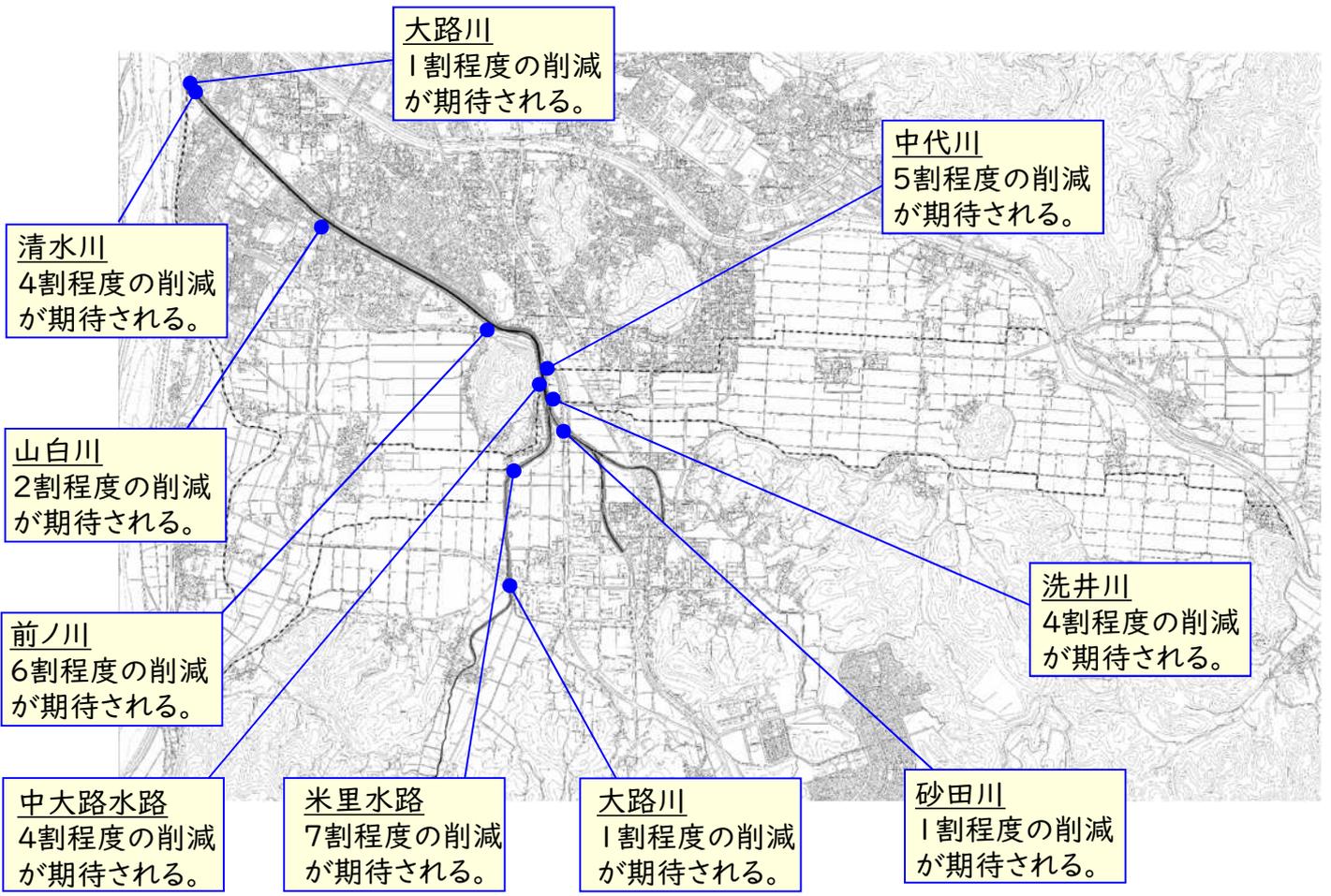
流域内の全ての学校(小・中・高)及び公園において、一律30cm雨水を貯める

●校庭・公園の面積98,350m² × 0.3m

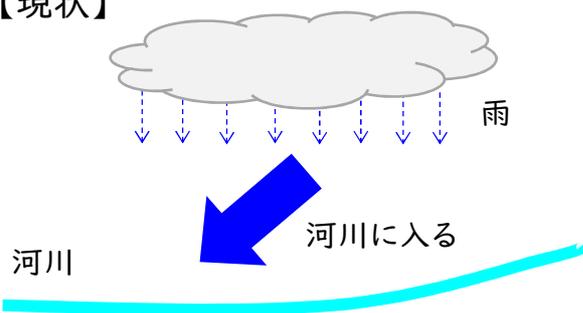


算定結果

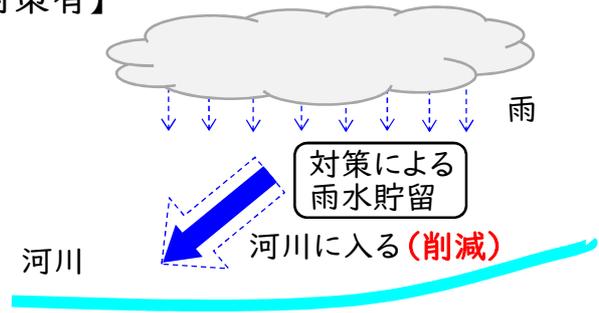
※雨水貯留対策により、各地点(青丸印)に集まってくる水の量をどれだけ減らすことができるのかを示しています。



【現状】



【対策有】



※雨水貯留対策は、河川への流入量を減らすもの(氾濫した水を貯めるものではない)

今回、簡素化した計算方法により、流域全体での対策効果をおおよそイメージしていただけるものを取り急ぎ作成しました。このため、今回の結果は、「こういう雨の場合にこういう対策をしたらこういう結果になる」という一例として捉えていただきたいと思います。

今後は、皆様のご意見を丁寧にお聴きしながら、別の雨の想定であったり別の対策の組合せについて効果算定をする予定です。